

READING

「この前のパーティーは、お嬢様の参加が多かったですか？」というおかしな質問をパーティーに参加した女性から受けた。

というのは、私が大阪で主催しているパブパーティーに参加した女性からの問いである。パーティー参加を募る案内文が男性向け、女性向けと表現を変えてつくつてあるからだ。女性用の案内は夢をもたせた無難な文に日時場所、参加人数を明記したもの。男性用は、「なんと、二〇〇人のお嬢様」が一堂に大集合。思いつきり、もてまкруろう」というタイトルをつけ、「ナニ、誘い方なんて全然、たいしたことじゃない。一〇〇%成功の秘訣はコ

レ！」というサブタイトルまでついてる。おまけに誘い方の5ヶ条を添え、参加人数は、誘惑される紳士一〇〇人、誘惑する淑女一〇〇人となっている。

その案内をパーティー会場まで持って来た男性がいて、それを見せてもらった女性が先の質問を私にしたのである。

どうして、案内を二通りもつくるのか同じでもいいのと思われるだろうが、男性と女性では微妙に違ってくる。雑誌でも男性誌と女性誌では表現方法やテーマの取り上げ方が違っているのを見てもわかる。

仕事上、男女を真剣に見ているとその違いを随所に見ることができると。たとえば、結婚。一ツにしてもある。女性の場合、結婚相手がまだ出現していても具体的に考えることができない。あの林真理子女史でさえ「教会で式を挙げ、ウエディングドレスを着るのが若い頃からの夢でした」といつている。女性は結婚相手がまだいなくても、ウエディングドレスのデザインを考え、ハネムーンはどこへ行

きたいと話し、結婚式はどこで挙げたいとまで考えられる。が、男性の場合は違う、好きな女性が現れつき合い始める。デートを重ねていくうちに「この女性と家庭をもっていける」と考えだす（お見合いの場合は少し違うが）。

が、まだ式を教会でなどとは考えられない。

今年、二十五歳になるY子は、二ツ年上の男性と一ヶ月程前からつき合い始めた。そのY子が私に、「三回ほどデートをしたのですが、彼結婚のことは全々、考えてないみたい。私とのことは単なる遊びなのでしょうか？」と問いかける。

「彼が結婚を考えていないかどうかと悩む前に、Y子さん以外の女性は考えられない」と彼に思わせるような仕向け方が先ね」と私は答えておいた。

このY子の話からも男性と女性の違いがうかがえる。

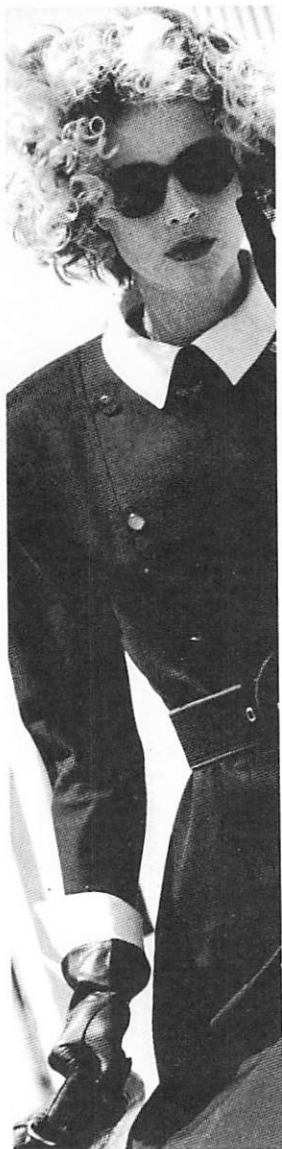
話を最初の「パーティー案内」にもどそう。女性向けの文は、第一に不潔さが少しでも出てはダメ。夢をもたせ

ような表現にするべきである。男性の場合は、現実的でジョークっぽい表現が受ける（意識レベルの高い男性には特に受ける）。誤解がないように、一筆、つけ加えておくが、中にはジョークを分かっていただけない男性からお叱りを受ける場合も時にはあり、男性用のジョークを「オモシロイ」と軽く受けてくれる女性にもお目にかかるが、そのような彼や彼女は数としては少ない。

男性は物事を考える時、また語る時万単位のマスで考え論じられるが、女性には、「私はそうは思わない」「私と彼はぜんぜん違う」と個人のレベルで考える場合が多い。このように男女の違いを知っておくことも、仕事上、また男女のつき合いの中でも参考になるのでは。

フロワール 1943年生まれ、エッセイ、恋愛カウセラー。雑誌「結婚講座」の編集者というホトクがありながら例年多く、その主内容である恋愛カウセリングは彼女の得意技。その上パーティー・コネクターやMCもこなす多才。そんな彼女の得意中の得意は女性の恋愛相談に対して短時間で本音の解答を出すという早撃マツク顔向けの口頭療法である。

恋愛専門学校
おんなと男
 その4
 by
フジタ タカコ
 Takako Fujita



やっぱり池袋はいいかわいしい街なのだろうか。

フロワール 詩人、美学美術史専攻、京都生まれ。'87現代詩手帖新人としてデビュー。如安詩集「娘十八習いごと」が集社から出版された。詩「エッセイ」誌を雑誌に連載中。月刊大衆「SEX」'92年7月号からエッセイの新連載が始まる。東京5区に拠る詩人として仕事も口実に、京都にいる。7月14日放送のNHK「燃えよドラゴン」詩の特集に出演予定。